

## 航空科学技術委員会（第 61 回）における各委員からのご意見の整理

## ①「1.（1）研究人材の改革」関連

- ・人材というと、大学や大学院に入ってから、航空の道に進みたいと思っても、結果として、気づくのが遅くて進路として選択しないことになることも。若年層のうちから理解を図っていくことが重要ではないか。
- ・スペシャリストばかりが育っても日本の技術としてまとまっていけないので、ジェネラリストを養成する仕組みが必要であり、国がこれを支援する形が取れると良いように考えている。

## ②「1.（2）研究資金の改革」関連

（特段の意見なし）

## ③「1.（3）研究環境の改革」関連

（特段の意見なし）

## ④「2. 未来社会デザインとシナリオへの取組」関連

- ・今後需要拡大が想定されている航空輸送がキーとなると考えられる。社会がこう変わるのであれば、航空輸送はこう変わるという見方が必要になってくると思われる。
- ・空の移動革命、society5.0 などの情勢を考慮し、ダウンサイジングの傾向などをどう考えるか。
- ・ニーズ側（エアライン側）の知見も踏まえたシーズを抜きの議論の必要もあるのではないか。
- ・航空機が自動車のように簡単に使える社会や通信のレベル向上による安全な交通整理が可能となる社会などが考えられる。
- ・産業の観点からは、燃費、安全性、環境性を満たすものが、将来の移動手段となるということは間違いないと思われる。それに加えて、移動時間としてのどの程度が求められるかは議論の余地があると思う。

## ⑤「3. デザインを実現する先端・基盤研究、技術開発」関連

- ・今後我が国は、基盤技術としての得意分野を伸ばしていくのか、それとも、システムのなところまで踏み込んで軸足を置いていくのか、という方向性を共通認識が持てるといい。
- ・未来社会デザインを実現するための技術としての技術の進歩（例えば電動化技術）を合わせて慎重に考えるべきと思う。
- ・尖った技術を求めれば、おのずと軍事利用への橋渡し（デュアルユースの観点）という議論になることについてどう整理するのだろうか。